

研究ノート (Study Note)

Gerontologyを取り巻く諸相 (1)

“Gerontologyを取り巻く一般情勢”

高橋 正義

(立命館大学衣笠総合研究機構)

Current Situations on Gerontology (1)

“General Views”

TAKAHASHI Masayoshi

(Kinugasa Research Organization, Ritsumeikan University)

This note introduces current situations on Gerontology from Global perspectives including Japan and is particularly focused on educational and research activities on Gerontology. The note will be emphasized and urged resource mobilization for Gerontology Research activities linked with fostering educational institutions, because of accelerated changing in demographic situations around the world. The notes will be presented in two parts, one for current situations in this journal and the other for specific issues in the next journal.

Key words : gerontology, demographic change, growing of ageing population, low fertility rate

キーワード : 老年学, 人口動態変化, 高齢化社会, 少子化

1. はじめに

今回から2回に分けて「Gerontologyを取り巻く諸相」と題した研究ノートで現状を紹介する。この分野に於ける日本の研究と教育上の課題の大きさを訴えることにより、特に、本分野への研究資源と人材育成上の教育資源の移行を促す緊急性を訴え、関係各位への関心と動機付けを目的とした報告を行う。

2. Gerontology とは何か？

Gerontology (老年学) の語源を辿れば、“Geronto” (Old man) というギリシャ語と Thanatology (死生学) という英語の合成語として、第二次世界大戦後、米国で生まれた新しい学問体系である。Gerontologyの扱う領域は、老後の身体や精神的衰弱、高齢者の生活セーフティネット作り、住居や地域環境、家族との繋がりや世代間交流、生きがいと価値ある生活、孤独と死生観等多岐にわたり、いずれ誰もが直面する「老い」の問題を多角的側面から研究することにより、高齢者政策や支援体制の改善に役立てようという学際的学問である。多くは、

本研究は、文部科学省オープンリサーチセンター整備事業「臨床人間科学の構築—対人援助のための人間環境研究 (平成17~21年度, 代表 望月昭)」による援助を受けて行われた。

老年医学の領域からスタートしたものが多く、個別専門分野でも、老年医学は、研究歴史が長く知的蓄積と知識資産の厚みがある。当初、老年医学のスタート段階に於いては、対症療法的なアプローチが主流を占めていた。その後、予防医学的研究領域へと拡がりを見せている。現在は、医学者や医療関係者だけに、老年学を委ねるだけではなく、生物学、基礎・臨床医学、看護学、社会学、心理学、哲学・倫理学、経営学、人口動態学、情報学、工学、芸術、食育教育、体育学、世代間交流学などあらゆる分野を網羅した学際領域へと拡大が続いている。

特に高齢者を一つの隔離された領域の人々とした過去の伝統的なイメージを変える必要性から、老年学にも、ジェンダーに焦点を当てた研究 (depts.washington.edu/geront/research.htm; www.amazon.com/Feminist-Perspectives-Family-Care-Applications/dp/0803951434) などが脚光を浴びるようになった。団塊の世代が高齢化を迎える2007年度以降の大衆長寿時代の到来を直前にして、21世紀の新しい時代に即応した社会システムの再構築の必要性が緊急の課題になり、Gerontology(老年学)を新しい角度から見つめなおす研究 (www.trinity.edu/~mkearl/geron.html; www.iog.wayne.edu/; biomed.gerontologyjournals.org; www.karger.com/ger/) が盛んに行なわれるようになってきた。

3. 世界の高齢化の現状と将来展望

—研究ニーズとシーズの見地から

20世紀に入り、世界の技術進歩は、あらゆる面で素晴らしい発展を遂げた。その恩恵は、人間の寿命の急速な伸びにも波及し、世界的な大衆長寿時代を迎えつつある。

そのスピードは、幾何級数的であることは、下記の表1からも明らかである。

表1：人口増加速度

(10億人増加するに要した/する年月)

年	人口	要した年
1804	10億	1,001,804
1927	20億	123
1960	30億	33
1975	40億	15
1987	50億	12
1999	60億	12
2013	70億	14
2027	80億	14
2048	90億	21

出典：世界人口協会2006総会資料

このような、急速な人口動態上の高齢者人口の急速な増加傾向は、一部サブサハラアフリカ諸国の例外を除き、先進国、途上国を問わず、図1に示すような世界的広がりを見せている。

上記2つのデータから、明らかなことは、欧米先進国は、第二次大戦直後から、高齢化社会に突入したが、日本は、先進国の中で最も早く高齢化社会入りしたフランスより約40年遅れで65歳以上の前期高齢者人口が、全人口の10パーセントを突破した。その時期は、1985年以降であった。

欧米先進国の高齢化のスピードは、比較的緩やかに上昇傾向をたどって来たのに対し、日本及びシンガポール、韓国、中国、タイ、インドネシア、インド、フィリピン、インド等アジア諸国の高齢化社会への仲間入りは、21世紀の前半期に日本や欧米を後追いする形で迫っている。その最大の特徴は、高齢化の加速度が早いことである。人類の歴史上類例を見ない速さで進みつつある世界の高齢化社会の到来は、少子化傾向とあいまって、従来の社会システムでは、対応できなくなってきた。大衆長寿時代を迎えるの社会制度面での破綻は、世界各国で顕在化してきた。

このような未曾有の社会的変革を必要として

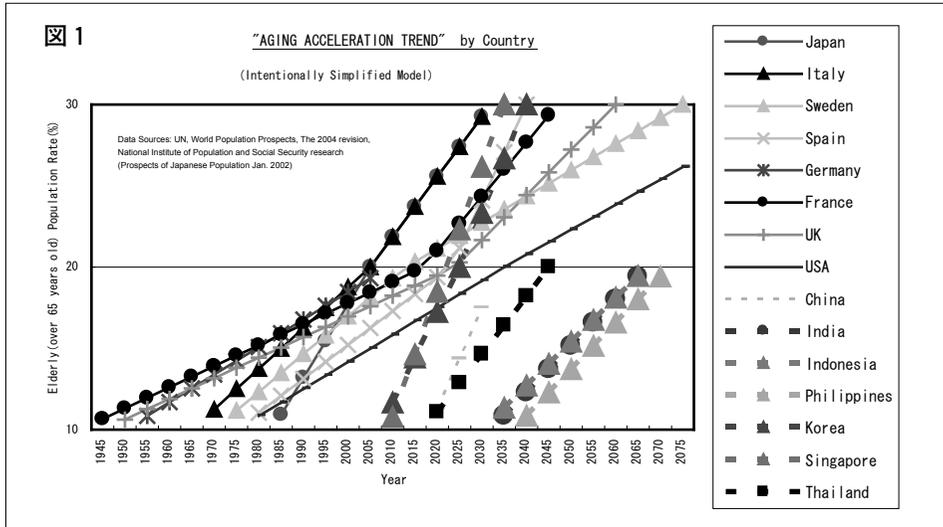


図1 世界の高齢者人口予測
 (国立社会保障・人口問題研究所 (2002) 日本の人口予測及び United Nations (2005) World Population Prospects, The 2004 Revision. を元に執筆者が作成したものである。)

いる時代にあつて、緊急の対応を要する目の前の個別の課題を追いかけている現状を1日も早く脱却し、先を見越した長期的視点に立った堅実で質の高い社会変革への戦略的対応をしていくことの必要性はますます高まっている。特に、急速な勢いで高齢化社会を迎えつつある日本は、約20年後には、高齢者人口が、30%に達する。高齢者の割合が30%に達する時期は、イタリアとともに世界で一番早い。

そこで、見えてくる一つのシナリオは、一足先に、高齢化社会入りをした、欧米の先例に学ぶことにより、日本の風土に適した新しい社会制度作りを急ぐ必要がある。厚生労働省も、「健康日本21」というキャッチフレーズで、健康長寿の日本実現への政策 (www.kenkounippon21.gr.jp/kenkounippon21/about/index.html) を実施中である。他の国々も、高齢化社会への対応を急いでおり、日本への実情視察も増えてきている。

国連も1982年にオーストリアの首都ウィーンで世界最初の「First World Assembly on Ageing」 (<http://www.globalaging.org/waa2/>

about.htm) を開催し、来るべき21世紀における社会変革の必要性 (Plan of Actions) を議論した。しかし、その後、2002年のスペインのマドリッドで開催された「Second World Assembly on Ageing」 (<http://www.un.org/esa/socdev/ageing/waa/a-conf-197-9.htm>) まで20年もの間、その間の結果の検証をして来なかったという事実は、本問題に対する世界の対応が、充分ではなかったことを如実に物語っている。国連のマドリッド会議で採択された21世紀の高齢化社会への対応のための緊急研究領域として採択されたものは、3つの方向性と6つの優先研究分野 (www.ngocongo.org/index.php?what=events&id=235) を具体的に指し示している。この内容は、今後、この分野での研究を深化させていく上で大いに参考になる指針である。

過去の研究アプローチの側面から検証してみると、特に、社会改革に必要な研究開発の面で、課題対応型の日本と戦略対応型の欧米のアプローチにおいて、研究アプローチにも大きな差が顕著である。日本においてもそのことに気づいた一部の有識者が、そのありようを問う行動を

起こしつつあることは、未来への光明を示し、将来への希望を抱かせるものである。

日本では、過去において個別課題対応型政策や研究が盛んに行なわれてきた。この分野の研究の草分け的存在である「東京都老人総合研究所」は、1972年の発足以来、生物学、基礎・臨床医学、看護学、社会学、心理学を糾合した学際的立場から高齢者問題の専門研究機関として地道な活動をしてきた。日本政府も「健康日本21」政策実施の一環として、愛知県大府市に「国立長寿医療センター（病院及び研究所）を2002年に設立した。

日本の関連学会も、日本老年医学会と日本老年社会学会が1959年に設立されたのが、最も古い。1986年には、日本老年精神医学研究会が発足している。1995年には、日本老年看護学会が設立された。大学などの特化した研究機関は、東北大学加齢医学研究所、神戸大学発達科学部附属研究所、日本医科大学老人病研究所などがある。日本は、このような実情から、高齢化社会への研究面での対応も、個別の課題対応型が多かったことは、多くの関係者が認めている。2006年10月28日に設立総会を行なった日本応用老年学会は、学際的な老年学への対応を目指して新しいスタートをきった。日本における戦略的研究アプローチの魁としてその動きに注目し、今後、日本における老年学という学問が、学際領域としての拡がりを見せ、より総合的な研究が活発に行われるようになることが望まれる。

4. Gerontology教育の現状

社会の大きな変革期には、幅広い知識に裏打ちされた有能な人材の確保が不可欠である。特に一番重要な人材教育での遅れは、大学教育の面で顕著である。アメリカの高等教育では、Association for Gerontology in Higher

Education (AGHE) が、1974年に設立され、現在260の大学研究機関 (<http://www.aghe.org/files/aghewebsite/MEMBERSHIP/Approved%20Members%20List%20October%202006.pdf>) が、学的際視野から、高齢者社会に貢献できる人材教育に貢献している。日本の現状を見ると、関連学部内の単独講座としての対応は、2000年以降増えてきている。しかし、Gerontologyという学際的人材教育を目指す学部を持つ大学は、桜美林大学大学院ただ一校だけである(塚田, 2005)。このような、現実を見るにつけ、変化のスピードの速さと課題解決への緊急性が高いGerontology分野での人材教育の遅れは、顕著である。

日本の若者の中には、本分野の知的蓄積を目指し、海外の大学でGerontology知識の蓄積を目指し高い学問的知識を蓄えて帰国する人材も増えているが、教育研究機関の少ない日本では、働く場を探す機会さえも初めから閉ざされているのが現状である。福祉・看護や医療面での個別対応型教育のみならず、広い学際領域をカバーした高等教育機関の急速な充実が強く望まれる。

東京大学は、小宮山宏総長のリーダーシップの下に、「Gerontology寄附講座」を本2006年4月に立ち上げ、研究拠点作りを目指している。立命館大学も、前身の教育科学研究所を発展解消する形で2000年に人間科学研究所を創設し、ヒューマンサービスプラットフォーム (HSP) という研究資源のネットワーク作りを進めている。この戦略性が、将来の高齢化問題を総合的且つ学際研究に向けた動きに結実することを期待したい。

参考までにアメリカに於けるGerontologyコースカリキュラムの例を下記しておく。

(注記：Intellectual Propertyに留意し特定大学の例ではなく、多くの大学で採用されている事例を筆者がまとめたものである)

応用老年学修士課程（例）

Master of Arts in Applied Gerontology

必修科目：

- ・ Retirement and Retirement Preparation
- ・ Seminar on Minority Aging
- ・ Housing for the Elderly : Planning, Public Policy and Research
- ・ Health Aspects of Human Aging
- ・ Federal, State and Local Programs in Aging

選択科目：

- ・ Long-Term Care Case Management with Older Adults
- ・ Women in Later Life
- ・ Sexuality and Aging
- ・ Social Gerontology
- ・ Quantitative Methods of Social Research
- ・ Computer Applications in Long-Term Care
- ・ Program Evaluation in Aging Services
- ・ Basic Medication Skills in Aging
- ・ Health Delivery Systems
- ・ Psychology of Death and Dying
- ・ Psychological Counseling for Late Maturity and Old Age
- ・ Leisure and Aging

高齢者メンタルヘルス資格カリキュラム

Geriatric Mental Health Certificate Program

必修科目：

- ・ Diagnosing and Treating Older Adults with Chronic Mental Illness
- ・ Helping Older Adults Manage Grief and Loss
- ・ Dementias: Diagnosis and Family Support
- ・ Working with Mood and Thought Disorders in Older Adults
- ・ Navigating through Multiple Systems with Older Adults

高齢者ケアマネジメント資格カリキュラム

Geriatric Care Management Certificate Program

必修科目：

- ・ The Geriatric Care Manager
- ・ Advanced Topics in Geriatric Care Management
- ・ Legal, Ethical and Financial Issues in Geriatric Care Management
- ・ Services and Programs Essential to Care Management
- ・ The Role of the Care Manager in Health Care Arrangements
- ・ Communication Skills for Geriatric Care Managers
- ・ Psychological Dimensions to Geriatric Care Management
- ・ Problem Solving in Geriatric Care Management

福祉マネジメント資格カリキュラム

Human Services Management Certificate Program

必修科目：

- ・ Becoming a Leader
- ・ Personnel Management: Hiring, Supervision and Human Resource Law
- ・ Ensuring Quality and Managing Risk
- ・ Who's Afraid of Financial Management?
- ・ Beyond Middle Management: Strategic Planning, Communications and Public Policy

社会人向け教育老年学修士コースカリキュラム

Master of Science in Adult and Community College Education/
Specialization in Educational Gerontology

必修科目：

- ・ Adult Education: History, Philosophy, Contemporary Nature
- ・ The Adult Learner
- ・ Educational Gerontology
- ・ Adulthood and Learning: The Later Years
- ・ Qualitative Research in Adult and Community College Education
- ・ Statistics for Behavioral Science
- ・ Thesis

選択科目：(例)

- ・ Introduction to Educational Inquiry
- ・ Research Methods and Analysis

社会人向け老年看護学修士コースカリキュラム
Master of Science in Nursing/
Specialization in Adult/Gerontology Nurse
Practitioner

必修科目：

- ・ Physiology for Advanced Clinical Practice
- ・ Leadership for Advanced Nursing Practice
- ・ Health Promotion and Intervention Primary Care
- ・ Informatics in Nursing and Health Care
- ・ Pharmacotherapeutics for Advanced Clinical Practice
- ・ Context for Advanced Nursing Practice
- ・ Health Assessment for Advanced Clinical Practice
- ・ Clinical Applications for Health Assessment and Promotion
- ・ Primary Care: Adults and Older Individuals
- ・ Nursing Science and Inquiry
- ・ Frail Old
- ・ Primary Care: A/GNP Clinical Applications
- ・ Professional Aspects of Advanced Clinical Practice

高齢者福祉施設経営学修士号 (MBA) カリキュラム

Master of Business Administration/
Concentration in Gerontology

必修科目：

- ・ Research and Presentation Skills
- ・ Economic Environment
- ・ Accounting Analysis for Decision Making
- ・ Financial Analysis
- ・ Making Strategy
- ・ Organizational Theory and Behavior
- ・ International Business
- ・ Strategic Management
- ・ Economics of Aging
- ・ Social Gerontology
- ・ Community-Based and Long-Term Care
- ・ Problems and Public Policy

遠隔地教育：老年学准学士号カリキュラム

Distance Education Associate of Arts in
Gerontology

必修（一部選択）科目：

- ・ English Composition
- ・ Principles of Speech Communication
- ・ Computer Literacy
- ・ Introduction to Statistics
- ・ Science of Biology
- ・ Math/Science
- ・ Western Civilization
- ・ General Psychology
- ・ Survey of Humanities
- ・ Ethics
- ・ Advanced Public Speaking
- ・ Human Sexuality
- ・ Death and Dying
- ・ Human Development

- ・ Psychology of Aging
- ・ Introduction to Sociology
- ・ Age and Aging

遠隔地教育：老年看護学修士号カリキュラム
Distance Education Master of Science in Nursing
Specialization in Adult and Older Adult Nursing

必修科目：

- ・ Introduction to Statistics
- ・ Context for Advanced Nursing Practice
- ・ Nursing Science and Inquiry
- ・ Informatics in Nursing and Health Care
- ・ Physiology for Advanced Practical Nursing
- ・ Health Promotion and Related Intervention
- ・ Health Assessment for Advanced Clinical Practice
- ・ Advanced Health Assessment Applications
- ・ Leadership for Advanced Nursing Practice
- ・ Adults and Older Adults: Chronic
- ・ Pharmacotherapeutics
- ・ Clinical Specialization Practicum: Adults and Older Adults
- ・ Nursing Education: Process, Roles and Strategies
- ・ Project
- ・ Curriculum Development in Nursing Education

5. 第2回World Ageing & Generations Conferenceに出席して考えたこと

Gerontology(老年学)という学際的学問体系への対立軸としてAGEING(英語:加齢,米語:AGING)という人間が生まれてから死ぬまでの加齢の過程を連続的に研究し,その中

も現代社会が失いかけている異世代間の交流促進を通して,より健全な社会の再構築を目指そうとするアカデミックグループが生まれている。その流れを反映した形で,世界の産官学NGO関係者を一同に会して最新の研究成果を発表するWorld Demographic Association主催の第2回World Ageing & Generations Conferenceに出席する機会を得た。会場は,オーストリアとドイツの国境に近い,スイスの世界遺産の小さな町St.Gallen市にあるSt.Gallen大学で2006年9月27,28,29日の3日間行なわれた。

プログラムの内容(http://www.wdassociation.org/_ulfs/documents/programme_overview.doc)は,幅広い領域を網羅し世界各国から集まった専門家,研究者が50以上のセッションに分れ連日のKey Note Speakerの講演は,勿論のこと,世界各国から参加した伸べ1000名を越す規模の大会運営を100名のボランティアの支援を得て確たる齟齬もなく,運営する力量にただただ感銘するばかりであった。日本からも多数参加したが,行政官出身者,産業界からの出席者が多く,発表者の中に日本の大学関係者が一人もいなかったことは,日本の大学のGerontologyへの取り組みの遅れを反映した形になっていると感じざるを得なかった。

今回の研究ノートの締めくくりとして,本世界会議での議長(Prof. Dr. Ilona Kickbusch)総括を要約し第1回研究ノートのまとめとした。

今回は,個別の事例研究の中から,興味深い事例を取り上げ高齢化社会のポジティブな側面から元気な高齢者を育む様々な取り組みへの挑戦を紹介したい。

総括1:21世紀のグローバルな大衆長寿時代は,過去の先例を見ない新しい世界の到来であるという認識を世界中の一人一人が共有する必要がある。

総括2：我々人類一人一人は、長寿を願いそれを実現しつつある。しかし、一人一人の長寿を願う気持ちをグローバルな社会全体として、明確な目標に据えてすべての社会システムの変革を促す大きなうねりにまで、未だ到達していない。

総括3：少子高齢化問題の根幹は、家庭や個人の考え方に起因するミクロ問題である。そのミクロ問題が社会問題となっているという認識から問題解決を考える必要がある。

この問題を解決する手段として国境を越えた移民問題があるが、根本的解決策にはならない。政治は、不可能を可能にする芸術であり、より良き人間をつくり、より良き世界を築いている“ART”であるとの認識にたって行動すべきである（前チェコ共和国大統領 Vaclav Havel氏が今回の記念講演時に発言した時の言葉の引用）。

総括4：長寿実現への道のりは、経済格差是正の道りである。ロンドン地下鉄のウエストミンスター駅から東に向かう一駅ごとにそこに住む住民の平均寿命が1歳ずつ減少していくという統計上の数字は、よくこの問題を象徴している。この問題は、国内問題であると同時に国際問題でもあることを再認識し、グローバル社会の格差是正への歩みを加速する必要がある。

総括5：健康な長寿時代を切り開くリーダーシップは、政治の世界が、新しい社会革命を起こす気概で変革の先頭に立つ必要がある。

総括6：長寿時代に於けるジェンダーとして、女性問題(国境を越えた看護要員、家事労働者、低賃金待遇)が増幅しつつある。また、高齢者差別の風潮は、ジェンダー問題として幼少期からの教育カリキュラムへ組み入れて長期的社会規範の改善に努める必要がある。

総括7：新しい医薬品・医療、技術開発の結果、人類の寿命は延び、労働年齢の上限は、上昇しつつある。高齢者を社会の新しい資源としてそ

の能力を活用する道筋を社会のあらゆる活動の中で考え実現することが、持続可能な世界の実現に極めて重要である。

総括8：最後に政策達成目標として以下の7項目は、緊急課題として各国が取り組むべき優先課題として合意形成された。

- 1) いつまでも元気に働ける環境作り
- 2) 労働と生活のバランスに配慮した制度設計
- 3) 健康増進策の推進（健康促進、予防医学の浸透、加齢にともなう病気の上手な管理）
- 4) 生涯教育環境の整備とその実現支援による知的刺激を保障する体制構築
- 5) 安心を保障する年金改革の実現
- 6) 高齢者は、消費するのみではなく貯蓄増強により高齢化社会の改革推進役として貢献すべきである
- 7) 高齢者自らが社会改革の推進役として参画し、自らの能力開発を常に怠らず、互いの力の相乗効果を高める努力を支援する。(Kickbusch, Ilona 2006)

引用文献

- 塚田典子 (2005) Gerontology Programs in Japan: Brief History, Current Status, and Future Prospects: Gerontology & Geriatrics: Haworth Press Inc. 26(1)
- Bloom, David E. (2006) Global Demography-Fact, Force, and Future. World Ageing & Generations Congress Presentation Data 3.
- Kickbusch, Ilona (2006) Summary Conclusion of 2nd World Ageing & Generations Congress, Presentation Data.
- (2006. 10. 31 受稿) (2007. 1. 30 受理)